

2022 年度

群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

**学部・附属学校共同研究推進委員会
報 告 書**

2023 年（令和 5 年）3 月

目次

I. はじめに	 2
II. 学部・附属学校共同研究推進委員会の構成	 3
III. 2022 年度附属学校園研究会報告	
1. 附属幼稚園研究会	 4
2. 附属小学校研究会	 5～6
3. 附属中学校研究会	 7～8
4. 附属特別支援学校研究会	 9～10
IV. 2022 年度共同研究活動報告	
1. 附属幼稚園	 11
2. 附属小学校	 12～13
3. 附属中学校	 14～15
4. 附属特別支援学校	 16～17

I. はじめに

学部・附属学校共同研究推進委員会委員長 渡部 孝子

本冊子は、令和4年度の群馬大学共同教育学部と同附属学校園との共同研究における成果や取り組みについて報告するものである。平成28年12月5日の有識者会議で示された附属学校の「使命・役割」、及び本学第4期中期目標・中期計画を踏まえながら、今年度も共同研究に取り組んできた。

学部・附属学校共同研究推進委員会の規約では、第2条で「学部・附属学校共同研究推進委員会は、教員養成及び教育実践に関わる組織的な共同研究を推進するとともにその成果を公表し、県内の諸教育機関と連携して教員の資質向上に寄与することを目的とする。」とされ、さらに第3条で、「学部・附属学校共同研究推進委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。」として、(1)共同研究の推進に関すること。(2)成果の公表に関すること。(3)教育機関との連携に関すること。(4)その他学部・附属学校共同研究推進委員会の目的を達成するために必要な事項」が掲げられている。当該委員会では、共同教育学部教員が所有する専門的知識と附属学校教員が所有する実践的知識を活用する方法を研究し、その成果を公開している。本冊子はその取り組みの一つである。

さて、今年度の学部と附属学校の共同研究は、「公開研究会」と「学部教員や学生との共同研究」の二つに分けられる。まず「公開研究会」では、それぞれの附属学校園が定める研究テーマについて、群馬県教育委員会をはじめ各市町村の学校教育従事者との協議やご指導を仰ぎながら行ってきた実践的な研究について発信した。学部教員は研究協力者として、理論的・実践的側面から支援した。今年度は、with コロナ型の公開研究会として、対面とzoomでの参加を可能としたハイブリット型や従来通りの対面型など各学校園の状況に合わせて開催され、活発な意見交換が行われた。公開研究会で配布される研究紀要や学習指導案集などは、学部教員との共同執筆の形を取って群馬県内外に発信されている。そして「学部教員や学生との共同研究」では、学部が案出した理論を各学校園での実践を通した検証により質の高い研究成果を生み出している。学部教員と附属学校園教員の連携による研究により、互いの専門性を高めるための研鑽の場ともなっている。様々な共同研究が行われている中、特に令和4年度は、ICT活用の教育効果に関する研究が複数行われたことが特徴として挙げられる。そのうちの1件は情報学部、共同教育学部、附属小学校及び他大学との連携による大掛かりな共同研究であった。

以上の通り、令和4年度も群馬大学共同教育学部では附属学校園と連携して多くの研究成果を上げてきた。当該委員会が、群馬県における学校教育の発展に寄与できるよう、今後も継続して取り組む所存である。皆様からの忌憚のないご意見やご指導をいただけると幸いである。

Ⅱ．学部・附属学校共同研究推進委員会の構成

委員長	共同教育学部 教授（附属小学校校長）	渡部 孝子
副委員長	共同教育学部附属小学校 副校長	木口 卓哉
委 員	共同教育学部附属小学校 主幹教諭	佐藤 真樹
	共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
	共同教育学部 准教授（教育実践センター）	阿部 充寿

Ⅲ. 附属学校園研究会報告

1. 附属幼稚園研究会

(1) 公開研究会

○ 日時 令和4年11月3日(木) 9時～15時

○ 研究主題：夢中になって遊ぶ幼児を育む保育(1年次)

～遊びの魅力を膨らませる環境の再構成～

○ 研究の概要：幼稚園教育の基本である「環境を通した教育」に即し、本園幼児の「夢中になって遊ぶ」姿を引き出していくための実践研究に取り組んでいる。幼児が夢中になって遊ぶためには、魅力的な環境が必要不可欠であり、興味をもったその環境に、幼児がいかに継続して関わり、遊び込むかが重要となる。本研究では、幼児の興味や幼児にとって必要な体験などに応じて、環境を変化・発展させていく環境の再構成について追究し、保育力の質向上と教育課程への反映を進めていく。

○ 保育を語る会

学 級 名		保 育 者		指 導 助 言 者
3歳児(3年保育)	桃組	尾高 貴子	須田 亜希子	田子 文子 先生
4歳児(3・2年保育混合)	赤組	齋藤 里衣	横田 杏	横坂 好枝 先生 大島 みずき 先生
	黄組	山田 啄登		
5歳児(3・2年保育混合)	緑組	金井 理絵	若松 史子	伴内 弘美 先生 高橋 恵津子 先生
	白組	前原 未明		



2. 附属小学校研究会

(1) 公開研究会

○ オンライン授業配信 令和4年6月10日(金)～20日(月)

研究会 令和4年6月17日(金)

○ 研究主題：社会に変革を起こす子どもの育成（2年次）

～「非認知的能力」を高める学びのデザインを通して～

○ 研究の概要：これからの教育に求められる資質・能力の育成に向け、「非認知的能力」を高める学びのデザインと学習指導の工夫等から、各教科等の問題解決的な学習の在り方を再考し、授業改善を行う。

授業研究会① 6月17日（金） 14：15～15：15 （生活科・総合のみ14：15～15：25）		授業研究会② 6月17日（金） 15：30～16：30	
国語科	2年 やさいのかんさつ文 を書こう（『かんさつ 名人になろう』）  前原 聡 4年 伝えたいことをはっさ りさせて附属小学校 を紹介しよう（『新聞 を作ろう』）  田島 友香	算数科	1年 かずしらべ  中野 紗織 5年 合同な図形  根岸 徹
理科	6年 燃焼の仕組み  井上 俊介 4年 空気と水の性質  関口 雄基	社会科	4年 ごみのゆくえ  樋口 晃 5年 あたたかい土地の くらし～沖縄～  井出 悠介
総合 生活科・	1年 レッツゴー！ ふぞくしょうたんけ んたい！  狩野 葵 3年 オープン！ わくわく〇〇工房  内田 圭祐	音楽科	6年 和音の美しさを 味わおう （音楽づくり）  稲森 雅明
図工科	4年 ウッド・ラボ  大塚 裕貴 6年 けしてかいて みえる音  貞永 瞳	体育科	4年 マット運動  石塚 祐子 1年 ボールころころゲーム  北浦 佑基
道徳科	2年 みんななかよく  衆原 和馬	英語活動・ 英語科	3年 もっと自分のことを 知ってもらおう！ ～持ち物しようかい！～  原 雄規 6年 “Wonderful City, Maebashi”～留学生 に前橋のおすすめの 場所を紹介しよう～  高橋 洋介
プログラミング	6年 いためておいしく！  関口 雄基 ※プログラミングについては、 授業動画の配信のみです。	道徳部  長野 哲也 音楽部  依田 理紗 国語部  小林 篤史	

(2) 提案授業

- 研究主題：共によりよい生活を創造する子どもの育成（1年次）
- ～『目標への情熱』と『粘り強さ』に着目した真正な学びのデザインを通して～
- 研究の概要：「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を図るために、非認知能力のうち、特に「目標への情熱」と「粘り強さ」を高める学びのデザインの在り方について、実践を通して明らかにする。

	<国 語 科> 令和4年11月 8日（火）10:30～11:15 第2学年「音読げきをしよう（『お手紙』）」 授業者：前原 聡
	<図画工作科> 令和4年11月 15日（火）13:35～14:20 第4学年「ぐんまの海」 授業者：大塚 裕貴
	<英 語 活 動> 令和4年11月 17日（木）10:30～11:15 第3学年「This is for you. ～がんばっているきみにありがとう～」 授業者：原 雄規
	<体 育 科> 令和4年11月 21日（月）10:30～11:15 第4学年「セストボール」 授業者：石塚 祐子
	<道 徳 科> 令和4年11月 24日（木）13:35～14:20 第2学年「一人一人を大切に『のこぎり山の大ぶつ』」 授業者：桑原 和馬
	<音 楽 科> 令和4年11月 29日（火）10:30～11:15 第6学年「詩と音楽の関わりを味わおう（歌唱）」 授業者：稲森 稚明
	<理 科> 令和4年12月 13日（火）10:30～11:15 第6学年「水溶液の性質」 授業者：井上 俊介
	<生 活 科> 令和5年 1月 31日（火）10:30～11:15 第1学年「ふゆとなかよし～かぜとあそぼう～」 授業者：狩野 葵
	<社 会 科> 令和5年 2月 2日（木）13:35～14:20 第4学年「特色のある地域の人々の暮らし」 授業者：樋口 晃
	<算 数 科> 令和5年 2月 7日（火）10:30～11:15 第1学年「ずをつかってかんがえよう」 授業者：中野 紗織

3. 附属中学校研究会

(1) 公開研究会

- 日時 令和4年10月13日(木)、14日(金)
- 研究主題：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造（1年次）
～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～
- 研究の概要：ICTを最大限に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として充実させることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生徒一人一人の学びを最大限に引き出せるような授業を提案する。

第1日目 10月13日(木)

～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」～

8:30	9:00	20	40	9:55	10:45	11:00	12:10	13:00	50	14:00	15:10	15:25	16:50
受付	開会式	全体会議 総論 説明	移動	公開授業①	移動	授業研究会①	昼食	公開授業②	移動	授業研究会②	移動	特別講演 文部科学省視学官 による特別講演	

授業①

道徳(1年4組) 授業者:小野聖 健太

「銀色のシャープペンシル」

白熱教室!
生徒が考え議論
する姿をお見せ
します。

【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 前原 健彦

群馬大学共同教育学部
教授 益田 祐亮

授業②

数学(3年2組) 授業者:高山 慶介

「相似な図形」

動かす、分ける、考える!
ICTを活用し、図形の
性質をつながけながら思考を
深める姿をお見せします。

【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 湯野 正

群馬大学共同教育学部
准教授 澤田 麻衣子

授業③

技術(3年1組) 授業者:茂木 悠

「計画・制御システムを応用した、統合的な問題の解決」

技術の問題解決の最終形態!
全ての学習内容とICTを
つなぎながら、生徒が試行錯誤
する姿をお見せします。

【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 松川 剛策

群馬大学共同教育学部
教授 関口 満

授業④

理科(2年1組) 授業者:柏木 純

「血液の循環」

ドキドキ!
フタの心臓のつくり
から血液の循環の仕組み
について解き明かし
ます!

【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 大河原 雅徳

群馬大学共同教育学部
教授 益田 祐亮

1日目 文部科学省講演

生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを考える

平成29年の学習指導要領改訂に伴って、「資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」「GIGAスクール構想」「観点別学習状況の評価」などの様々なキーワードが出されていますが、これらの関係について再確認します。また、育成を目指す資質・能力を育むための、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを考える機会にしていきたいと思います。ICTの効果的な活用についても触れます。

文部科学省初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹先生

動的な学び」の充実に向けた実践を通して～

第2日目 10月14日(金)

8:30	9:00	20	40	9:55	10:45	11:00	12:10	13:00	50	14:00	15:10	15:25	16:50
受付	開会式	全体会 総論 説明	移 動	公開授業 ①	移 動	授業研究会 ①	昼 食	公開授業 ②	移 動	授業研究会 ②	移 動	ICT活用に関するワークショップ	ICT活用委員会

授業①

国語(2年3組) 授業者:高橋 正人
「タオル」

学習用紙を手掛かりに、映像化を通じて、読みの解釈を広げていく事をお見せします。



【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 柴崎 博志

群馬大学共同教育学部
准教授 河内 昭浩

授業①

音楽(2年4組) 授業者:星野 勇希
「歌舞伎に親しみ、その魅力を味わおう(動画様)」



THE・男のドラマ。
「かつこよさ」を追求する
歌舞伎の世界を、「音楽」を
手掛かりに紐解いていき
ます。

【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 黒谷 英重

群馬大学共同教育学部
教授 石田 秀文

授業①

保健体育(2年2組) 授業者:三好 和人
「マット運動」

ICTで活性化!
マット運動で豊かに関わり合う
生徒の姿をお見せします。



【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 小山 靖弘

群馬大学共同教育学部
准教授 荒瀬 陽子

授業②

社会(1年1組) 授業者:後藤 高行
世界の諸地域「ヨーロッパ」

今のヨーロッパが
抱える課題に、
生徒が斬り込みます。



【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 星野 浩樹

群馬大学共同教育学部
准教授 黒谷 好子

授業②

英語(3年3組) 授業者:瀬戸 辰徳
「Program 5 The Story of Chocolate」



変幻自在の構成。相手の
興味を引くように臨機応変
にコミュニケーションを
楽しむ生徒の姿を
お見せします。

【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 松川 美穂子

群馬大学共同教育学部
講師 津久井 真之

授業②

美術(1年2組) 授業者:多田 慎平
「見えないものをあらわす」



見えないものの表現に
正解はない。
生徒たちの発想が混じり合い、
自分の正解を拓いていきます。

【指導助言者】
群馬県教育委員会
指導主事 大井 亜

群馬大学共同教育学部
教授 西江 真志

2日目

実施発表・ワークショップ

「使う・深める・広げる」明日から実践できるICT

使 う…初級編、これからICTを活用したい方向け

深める…中級・上級編、今よりもっとICTを活用したい方向け

広げる…研修編、仲間にICTのよさを伝えたい方向け

3つのグループに分けて、誰もがICTに寄り添える端末の活用法を提案します。



ICT活用委員長
斉藤 剛志

4. 附属特別支援学校研究会

(1) 校内研究授業（県内特別支援学校初任者研修提供授業）

○ 授業研究会 令和4年6月21日（火）

○ 目的

- ・ 初任者への授業提供と授業研究会をとおして、今年度ここまで取り組んできた研究の成果と課題を見出し、今後の取り組むべき研究内容を一層確かにすること。
- ・ 研究協力者と協議を行う中で、研究内容やこれまでの取組についての評価・改善の機会とすること。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「てんてん せんせん かたちをかこう」	図画工作科 (絵画)	横堀 莊子 宮前 篤嗣 長田 紗綾
	「ぼーるらんどであそぼう」	遊びの指導	小泉龍之介 小須田朱里 水落公美子
中学部	「夏野菜を作って売ろう」	作業学習 (農園芸班)	山口 哲平 金子 芽衣 小倉 彩
	「目指せ！体操名人 ～紹介しよう！みんなの得意技～」	保健体育科 (器械運動)	元井 優気 真下 和将
高等部	「計算の達人になろう」	数学科 (数と計算)	上坂美香子 吉田 恵理 石井 翔也
	「けってはしって点をとろう ～三角フットベースボール～」	保健体育科 (球技)	関口 紘樹 島田 大樹 高橋ほたる

(2) 公開研究会

○ 令和4年11月11日（金）

○ 研究主題：子どもが自ら考え、学び合う授業実践（1年次）

～資質・能力の育成に向けた「個別最適な学び」と

「協働的な学び」へのアプローチ～

○ 研究の概要：特別支援学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、本校としての考え方を示す。それらを授業実践の中で具現化していき、授業づくりの留意点を明らかにする。今年度は、2年次計画の1年目として、「指導の個別化」、「学習の個性化」、「協働的な学び」の3つの視点に着目して授業を行った。

学部	単元名・題材名	教科 (領域)	授業者
小学部	「どんなおはなし？ みんなでよもう！」	国語科 (読むこと)	山田 茅穂 長田 紗綾
	「おきにいりらんどをつくって あそぼう！」	生活単元学習	宮前 篤嗣 横堀 莊子 長田 紗綾
中学部	「くらべよう はかろう ～ふとく宅配ゲーム～」	数学科 (測定)	金子 芽衣 小林 弥生
	「うごくとうどうなる？ いろんな絵」	美術科	真下 和将 山口 哲平 小倉 彩
高等部	「新製品の規格づくり ～冬のハーバリウム～」	作業学習 (農園芸班)	吉田 恵理 関口 紘樹
	「みて きいて のって 音を合わせよう」	音楽科 (器楽)	島田 大樹 小越 薫子

IV. 共同研究活動報告

1. 附属幼稚園

(1) 共同研究

大島みずき：公開研究会を含む保育及び研究についての通年における助言

(2) 共同研究例

○ 研究に係る指導助言

- ・テーマ：夢中になって遊ぶ幼児を育む保育(1年次)

－遊びの魅力を膨らませる環境の再構成－

- ・発表者：尾高 貴子，山田 啄登，齋藤 里衣，金井 理絵，前原 未明
- ・期日：令和4年8月25日(木)
- ・概要

幼児に願う姿を引き出していくための環境の構成や再構成に関する文献の内容について紹介し合い，本園研究への理解を深めた。

文献の内容を基にしながら，これまでの実践との関連や今後の実践で大切にしていきたい事柄について助言を受け，共通理解を図った。

○ 研究に係る保育実践への指導助言

- ・テーマ：夢中になって遊ぶ幼児を育む保育(1年次)

－遊びの魅力を膨らませる環境の再構成－

- ・対象：4歳児
- ・保育実践者：山田 啄登，齋藤 里衣，横田 杏
- ・期日：令和4年6月24日(金)
- ・概要

保育実践における七夕飾りの設置場所は設置方法，保育のねらいや幼児の活動との関連などについて検討を行った。

年長児がプレイルームに飾っている七夕飾りからの影響や，年中幼児の身体機能などを考慮した環境の再構成の必要が明らかになった。

2. 附属小学校

(1) 共同研究一覧

令和4年度 共同研究一覧

全体研究 4月～6月 社会に変革を起こす子どもの育成 ～『非認知能力』を高める学びのデザインを通して～
9月～3月 共によりよい生活を創造する子どもの育成 ～『目標への情熱』と『粘り強さ』に着目した真正な学びのデザインを通して～

教科・対象	附属小教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	前原 聡 田島 友香 小林 篤史	濱田 秀行	研究会 4月～6月：自他やテキストの言葉を基に友達のを考えを受け止め、対象と言葉、言葉と言葉との関係についての友達の考えを深める子ども 9月～3月：自分の思いを基にした学習課題を解決するために、言葉のもつ特性に着目しながら認識・思考・表現を繰り返す学び
		河内 昭浩	研究協力：ICTを活用した国語の授業開発（作文の調査）
社会科	樋口 晃 井出 悠介	宮崎 沙織	研究会 4月～6月：社会的事象の問題に対する他者の考えや根拠を質的に向上できるよう働きかける子ども 9月～3月：社会的事象の仕組みや人々の営みと自らを含む人々の生活とのつながりを見いだす学び
算数科	中野 紗織 根岸 徹	小泉 健輔 澤田麻衣子	研究会 4月～6月：数量や図形についての課題に対する解決方法を筋道を立てて説明し、簡潔性、明瞭性、一般性をもった解決方法を導く子ども 9月～3月：自分や友達が表した解決方法を評価・改善しながら、数学のよさに気付く学び
理科	井上 俊介 関口 雄基	益田 裕充	研究会 4月～6月：理科の情報を基にした自分の予想や仮説、考察を伝えることで、他者の予想や仮説、考察を、実証性・再現性・客観性に照らし合わせた予想や仮説、考察にできる子ども 9月～3月：生活の中にある自然の事物・現象についての自他の不確かな考えを基にした問題を科学的に解決する学び
生活科	狩野 葵 内田 圭祐	大島みずき	研究会 4月～6月：対象への関わり方やその根拠を伝え、他者の関わり方を質的に向上させる子ども 9月～3月：身近な人々や社会及び自然と自分のつながりを見いだしながら関わる学び
総合	狩野 葵 内田 圭祐	音山 若穂	研究会 4月～6月：対象への関わり方やその根拠を伝え、他者の関わり方を質的に向上させる子ども 9月～3月：身近な人々や社会及び自然と試行錯誤しながら関わり続ける学び
音楽科	稲森 雅明 依田 理紗	山崎 法子 吉田 秀文	研究会 4月～6月：（表現領域）自他の音楽表現を基に、曲想と音楽表現の工夫を結び付けた考えを伝え、他者の音楽表現を高められる子ども （鑑賞領域）自他の聴き取ったことや感じ取ったことを基に、曲想と音楽構造とを結び付けた考えを伝え、他者の聴き方を深められる子ども 9月～3月：感性を働かせて、音や音楽を自分のイメージや感情、経験と結び付け、音楽を価値付ける学び
	稲森 雅明	山崎 法子	論文（共同執筆） 小学校音楽における「表現すること」の効果的な学習指導：ICT教材を使った創作活動を通して
図工科	大塚 裕貴 貞永 瞳	郡司 明子	研究会 4月～6月：対象や事象の多様な価値を基にした自己の作品や行為、言語によって、他者の造形活動を更新できる子ども 9月～3月：対象や事象を造形的な視点で捉え、感覚や行為を通して、自分にとっての意味や価値をつくりだす学び
体育科	北浦 佑基 石塚 祐子	鬼澤 陽子	研究会 4月～6月：運動の課題に応じた解決策を伝え、仲間の動きを目標とする動きへ導くことができる子ども 9月～3月：「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、運動やスポーツのもつ楽しさや喜びを仲間と共に実感できる学び
	北浦 佑基	鬼澤 陽子	教職大学院報告書 「子どもの学習成果につながる教師行動の追究-子どもの技能レベルに応じた教師のフィードバックに着目して-
道徳科	衆原 和馬 長野 哲也	山崎 雄介	研究会 4月～6月：学習課題に対する他者の考えを聞いた上で、学習課題に対する自己の考えを他者に伝えることで、学習課題に対する他者の考えを多面的・多角的な考えにできる子ども 9月～3月：自己の生き方に対して、様々な他者と考えを伝え合い、自己の経験や感じ方と照らし合わせながら、自己の生き方について問い続ける学び
	衆原 和馬	日置 英彰	シンポジウム「評価を生かした道徳科の授業づくり」
英語活動 英語科	原 雄規 高橋 洋介	津久井貴之	研究会 4月～6月：聞き手の反応を基に改善した英語表現で考えや気持ちを伝え、相手の英語表現を改善する子ども 9月～3月：実生活と関わる目的や場面、状況において、自分の考えや気持ちを相手と伝え合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感する学び
その他	芹澤 嘉彦	霜田 浩信	12月 学生の卒業論文のための調査

(2) 共同研究例

○ 国語科 共同研究授業実践

- ・テーマ：作文指導における，タブレット端末と紙を用いた場合の学習成果の違いについて
- ・対象：4年2組，3組
- ・授業実践者：田島 友香
- ・期日：令和4年12月20日（火），22日（木）
- ・概要：

抽出学級AとBにおいて，学級Aの児童には，タブレット端末上で，学級Bの児童は，従来通り原稿用紙を用いて作文を書かせた。学習環境の違いによる成果の違いについて，文字の正確さ，誤字の少なさ，文章表現の簡潔さなどの視点から分析し，明らかにする。

○ 音楽科 共同執筆

- ・テーマ：小学校音楽における「表現すること」の効果的な学習指導：ICT教材を使った創作活動を通して
- ・対象：6年2組
- ・授業実践者：稲森 稚明
- ・期日：令和4年4月26日（木）～6月24日（金）
- ・概要：

小学校音楽科においてタブレットを使った創作活動を通し，自他の音楽表現を基に，曲想と音楽表現の工夫を結び付けた考えや，それを基にして生まれた音や音楽に納得できるような学習指導について明らかにする。鍵盤楽器が苦手な子どもや，和音についての理解が困難な子どもたちに対するタブレット等のICT教材の有効性について，授業の実践方法の結果から分析と考察を行う。



3. 附属中学校

(1) 共同研究一覧

教科・対象	附属中教員	学部教員	研究テーマ・内容
国語科	高橋 正人	河内 昭浩	研究会：確かな読みの技術に基づき、自分の思いや考えを広げたり深めたりする生徒の育成 —学習用語を意識しながら本文に立ち返り、文学的な文章の場面を映像化する活動を通して— 4月～10月：学習用語を手掛かりに作品を解釈し、映像化活動による話合いの焦点化を通じて、根拠を明確にもって作品の解釈を深めることができる生徒の育成
	下田 俊彦	河内 昭浩	授業実践研究：自分の経験や考えを一般化し、説得力のある意見文を書く
	新井 英雄	濱田 秀行	授業実践研究：読むことの学習における授業改善
社会科	後藤 高行	粟谷 好子 関戸 明子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～ 4月～10月：主体的に課題を解決し社会参画しようとする生徒の育成
数学科	高山 慶介	澤田麻衣子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～ 4月～10月：数学に関わる事象を統一的・発展的に考察し、数学を深めていく生徒の育成
	関根 直哉	伊藤 隆	論文：あみだくじを題材とした中学校数学実践授業 (群馬大学教育実践研究 第40号 論文投稿)
理科	柏木 純	益田 裕充	研究会：生徒一人一人の学びを自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：科学的な根拠を基に探究していくことができる生徒の育成
		栗原 淳一	卒業論文：理科授業において解決する方法を立案する過程に関する実証的研究（研究支援） 卒業論文：理科指導法での介入による学生の変容に関する研究（研究支援）
	斉藤 剛志	益田 裕充	卒業論文：問題を見いだす過程において育成される資質・能力について～課題の設定における有効な指導～（研究支援）
		栗原 淳一	学会発表：見通しを持ち、検証できる仮説の設定に関する研究～中学校第1分野における課題の分類を通して～（共同研究）
	櫻井 康之	佐藤 綾	卒業論文：群馬県における保護個体・野生個体・市販個体を対象としたメダカの遺伝群馬県における保護個体・野生個体・市販個体を対象としたメダカの遺伝子型解析（研究支援）
		益田 裕充	卒業論文：理科授業における課題の類型化に関する研究～実際に行われた授業の課題を分析して～（研究支援） 卒業論文：科学的に探究する力の育成に関する実証的研究～探究の過程を振り返る学習活動を通して～（研究支援） 卒業論文：理科授業においてより妥当な考えをつくりだす力の育成に関する研究～探究の過程を振り返る学習活動を通して～（研究支援）
		上原 永次 益田 裕充	センター論文：結果を的確に表出させるための学習過程の工夫に関する実証的研究～デジタルノート導入による結果の表出の変化とその改善について～（共同研究）
音楽科	星野 勇希	吉田 秀文	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～ 4月～10月：音楽について他者と対話し、共感と感動を伴った音楽体験のできる生徒の育成
美術科	多胡 慎平	齋江 貴志	研究会：自ら問題を解決し、未来を創る生徒の育成 ～「見方・考え方」を働かせる問題解決の過程を通して～ 4月～10月：「造形的なものの見方・考え方」を基に、新たな発想を生み出していく生徒の育成
技術科	茂木 悟	関口 満	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～ 4月～10月：実現可能な解決策を見だし、見通しをもって問題を解決する生徒の育成
保健体育科	三好 和人	鬼澤 陽子	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～ 4月～10月：問題解決に向けて運動の取り組み方を工夫して楽しむ生徒の育成
	久保 涼子	鬼澤 陽子	卒業論文：OPPシートが中学校の体育授業に与える学習効果の検討（研究支援） 卒業論文：個人種目の集団化による運動有能感の変容について～中学校2年生の集団マツを対象にして～（研究支援）
道徳科	小野里健太	益田 裕充	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～ 4月～10月：道徳的価値に対する自己理解の深まりや考えの広がりを実感しながら道徳性を育み、よりよく生きようとする生徒の育成
英語科	瀬戸 辰徳	津久井貴之 山田 敏幸	研究会：生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造 ～ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた実践を通して～ 4月～10月：表現豊かにコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

(2) 共同研究例

○ 国語科 共同研究授業実践

- ・テーマ：具体例をもとに説明文を書く
- ・対象：3 学年
- ・授業実践者：群馬大学共同教育学部国語教育専攻
准教授 河内 昭浩
- ・期日：令和4年7月15日（金）
- ・概要：



本時は、自分の体験を一般化し、改めて文章にする学習を行った。生徒は事前に、「中学校での思い出2つとその理由」という課題で作文を書き、Google Classroom に事前に提出した。本時の導入では、入試や社会で求められている国語の力について実際の入試問題を例に説明を行った。生徒は自分の体験や経験だけでなく、一般社会にどのような意味があるか（一般化）しながら作文を書くことが大切であると理解することができた。次に、シンキングツール「ベン図」を用いて、自分の2つの思い出の共通点と相違点をまとめる学習を行った。生徒は、共通点の自分や社会にとっての意味を整理した。最後に、2つの思い出に共通する事柄や特徴を整理した上で、「中学校時代の思い出」の文章を再文章化する活動を行った。

○ 理科 共同研究授業実践

- ・テーマ：
「群馬県に生息する野生メダカの保全について考える」
- ・対象：3 学年
- ・授業実践者：群馬大学共同教育学部理科教育専攻
准教授 佐藤 綾
- ・期日：令和5年1月18日（木）
- ・概要：



本時は、市販の黒いメダカを野生のクロメダカが減っている地域に放流することは、絶滅危惧種であるメダカを守る行動といえるのかを探究した。本時の導入では、メダカが絶滅危惧種であることを理解させ、メダカを守るために野生のメダカと同じ品種、色の市販のメダカを放流させる活動について賛成か反対か考えさせた。生徒は様々な資料を基に、「絶滅から守るならどんどん放流した方がよい」や「野生の遺伝子の形を守るなら放流しない方がよい」と考え、メダカの保全に向けた様々な考えを理解した。最後に、いくつかの野生のメダカの遺伝子が既に汚染されていることが調査によって明らかになっており、この問題を国内外来種と呼ぶことを伝えた。生徒は絶滅から守るのか、遺伝子を守るのかなどを自分なりの答えを出し、自身のこれからの行動と関連付けて考察していた。

4. 附属特別支援学校

(1) 共同研究一覧

教科等	学部	特別支援学校教員	研究協力者・指導教員		時期	単元名・題材名／内容
国語科	小学部	山田 茅穂 長田 紗綾	特別支援教育講座 国語教育講座	霜田 浩信 河内 昭浩	9月～ 11月	「どんなおはなし？ みんなでよう！」（読むこと）
数学科	高等部	上坂美香子 吉田 恵理 石井 翔也	特別支援教育講座 数学教育講座	金澤 貴之 澤田麻衣子	5月～ 7月	「計算の達人になろう」（数と計算）
	中学部	金子 芽衣 小林 弥生	高崎健康福祉大学 人間発達学部こども教育学科 数学教育講座	浦崎 源次 澤田麻衣子	9月～ 11月	「くらべよう はかろう ～ふとく宅配ゲーム～」（測定）
音楽科	高等部	島田 大樹 小越 薫子	特別支援教育講座 音楽教育講座	金澤 貴之 菅生 千穂	9月～ 11月	「みてきいてのって 音を合わせよう」（器楽）
図画美術科 工作科	小学部	横堀 莊子 宮前 篤嗣 長田 紗綾	特別支援教育講座 美術教育講座	木村 素子 林 耕史	5月～ 7月	「てんてん せんせん かたちをかこう」
	中学部	真下 和将 山口 哲平 小倉 彩	特別支援教育講座 美術教育講座	中村 保和 林 耕史	9月～ 11月	「うごくとうなる？ いろんな絵」
保健体育科	中学部	元井 優気 真下 和将	特別支援教育講座 保健体育講座	中村 保和 中雄 勇人	5月～ 7月	「目指せ！体操名人 ～紹介しよう！みんなの得意技～」（器械運動）
	高等部	関口 紘樹 島田 大樹 高橋ほたる	東京福祉大学 保育児童学部保育児童学科 保健体育講座	上田 征三 中雄 勇人	5月～ 7月	「けってのはしって点をとろう ～三角フットベースボール～」（球技）
遊びの指導	小学部	小泉龍之介 小須田朱里 水落公美子	特別支援教育講座 特別支援教育講座	霜田 浩信 阿尾 有朋	5月～ 7月	「ぼーるらんどであそぼう」
生活単元学習	小学部	宮前 篤嗣 横堀 莊子 長田 紗綾	特別支援教育講座 特別支援教育講座	木村 素子 阿尾 有朋	5月～ 7月	「おきにいりらんどを つくって あそぼう！」
作業学習	中学部	山口 哲平 金子 芽衣 小倉 彩	特別支援教育講座 高崎健康福祉大学 人間発達学部こども教育学科	中村 保和 浦崎 源次	5月～ 7月	「夏野菜を作って売ろう」（園芸班）
	高等部	吉田 恵理 関口 紘樹	特別支援教育講座 東京福祉大学 保育児童学部保育児童学科	金澤 貴之 上田 征三	9月～ 11月	「新製品の規格づくり ～冬のハーバリウム～」（園芸班）

(2) 共同研究例

○ 数学科 共同研究授業実践

- ・ テーマ：子どもが自ら考え、学び合う授業実践
～資質・能力の育成に向けた「個別最適な学び」と
「協働的な学び」へのアプローチ～
- ・ 単元名：くらべよう はかろう ～ふとく宅配ゲーム～
- ・ 対象：中学部2年生 6名
- ・ 授業実践者：金子 芽衣, 小林 弥生
- ・ 期日：令和4年11月11日（金）
- ・ 概要：

友達と学び合うことをとおして、個々のねらいを達成することができる授業を目指した。本実践では、数学科における実態だけでなく、興味・関心を始め、得意なことや有効な支援の手立てを捉えて学習活動を構想し、実践した。生徒それぞれのねらい達成に迫るため、以下の視点で授業づくりを進めた。



「個別最適な学び」の視点では、イラストやドット図、数値など、個々の実態に応じて重さの表記の仕方を工夫した。「協働的な学び」の視点では、実態差があっても重さという学習集団全体のめあてが認識できるように、様々なタイプの計器を用意した。また、大型の教材教具を準備することで、離れた場所で活動している友達にも気付けるような環境構成とした。

個々の実態に合った教材や支援具があることで、生徒自らが直接比較したり、任意単位や数値による間接比較をしたりしながら重さを比べる姿が見られた。さらに、はかりの傾きから2つの物の重さを比べる際、判断に迷った生徒は、隣で量っている友達の「こっちの方が下がっているから重いな」というつぶやきを聞くと、自分の前にある上皿天秤でも下がっている方を指さして「（重いのは）こっちだ」と、考えたことを周りに伝える姿が見られた。このような場面から、特別支援学校においても「個別最適な学び」と「協働的な学び」のどちらかではなく、両方を一体的に充実させていくことの大切さを明らかにすることができた。

報告書の作成 担当者

共同教育学部 教授（附属小学校校長）	渡部 孝子
共同教育学部 附属小学校 副校長	木口 卓哉
共同教育学部 附属小学校 教頭	佐藤 真樹
共同教育学部 教授（教育実践センター）	吉田 浩之
共同教育学部 准教授（教育実践センター）	阿部 充寿

2022 年度 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室

学部・附属学校共同研究推進委員会 報告書

2023 年 3 月

発行 群馬大学共同教育学部 学部・附属学校連携室
学部・附属学校共同研究推進委員会
群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
電話（直通） 027-220-7385（事務局）
